

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	青山学院大学				
取 組 名 称	都心の文化資源等を活かした知の創造と発信				
取組学部等	総合文化政策学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22126	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	専門基礎	体験活動			
キーワード	文化機関, 国連大学, NHK, 街中メディア拠点, ラボ・アトリエ実習				

<選定理由>

本取組は、文化を総合的にマネジメントし、内外に発信できる人材を育成するという視点から学外文化機関と教員との共同プロジェクトに学生を参加させる体験型プログラムとして高く評価できる。大学が立地する地域が文化資源に恵まれているという利点を活かした取組であるが、地方を含む他の都市型大学にも転移可能な取組として大きな意義を有するものである。また、本プログラムは、教育課程の上では「ラボ・アトリエ実習」として2・3年次に配当され、同科目で設定している4領域のそれぞれについて、連携する学外文化機関（国連大学、東京都歴史文化財団トーキョーワンダーサイト、渋谷区、NHK）が確保され、特にNHKとの共同事業として街中メディア拠点を整備しているなど、取組を実施する基盤は十分に整えられている。

なお、今後の取組の実施にあたっては、社会的に意義があり、かつ学生にも魅力あるプロジェクトを設定することに加えて、学生の経験が狭い分野にとどまることのないようにするため、事前学習、プロジェクト間のコミュニケーション、最終報告会等を充実させることが期待される。

取組の概要【1ページ以内】

現在、先進国の経済は主に知識を売ることによって成り立っている。知識は固有の文化的背景から生まれることが多いため、内外において文化に関する教育の必要性が強く主張されており、その成否は国の国際競争力を決定づけるとも言われている。青山学院大学では、そうした教育ニーズに応えるため、平成20年度に総合文化政策学部を開設した。同学部では文化を総合的にマネジメントし、内外に発信できるような人材の輩出を目指している。その象徴として、同学部には学外の文化機関と教員との共同プロジェクトに学生を参加させる新しい体験型教育プログラム「ラボ・アトリエ実習」を設けている。同実習を通じて、学生は在学中から創造の現場とそのマネジメントを実体験できることになる。

上記プログラムの成否は、まずは「魅力あるプロジェクトの提供」に、次には学生にもなじみやすい「学習参加システムの整然とした進行」にかかっている。そこで今回、学部の第1期生とともに実験・試行を繰り返しながら上記2点への対応を早期に講じ、教育プログラムの質と機能の向上を一気に図り、実習科目並びに総合文化政策学部の学部教育を安定軌道に乗せることを目指すこととした。

「魅力あるプロジェクトの提供」については、学生の学習意欲を刺激する先端的で臨場感に溢れたテーマを用意する必要がある。学部では、第一級の文化資源に囲まれ情報発信拠点でもあるという都心立地のメリットを活かすことで、この課題に組織的に対応することとした。具体的には「国際文化・芸術文化・都市文化・メディア文化」の学部コース・プログラムに合わせて、実習で取組む分野を「平和活動・アートマネジメント・環境創造・映像等企画制作」に定めるとともに、独自にキャンパス周辺の文化施設、教育資源、活動現場等をサーベイした結果をもとに、その主たる連携協力先を「国連大学・TWS（トーキョーワンダーサイト）・渋谷区・NHK」に求めることとした。これにより魅力あるプロジェクトづくりのための環境条件が整うこととなる。

次に「学習参加システムの整然とした進行」については、いずれのプロジェクトも相当の準備期間が必要であり、また最初から高いレベルのマネジメント能力の発揮が求められることから、本取組では半年前からの動き出しを念頭に教務上のスケジュールを立て、望ましい進行のあり方を見出すこととした。特に学生側の事前準備・事前学習に配慮し、参加予定学生と担当教員、協力機関との円滑なコミュニケーションのため、SNS機能を持つ専用ウェブサイトを構築すること、キャンパス内外にリアルなコミュニケーションの場としての交流ボードを整備し活用すること、の2点に取組むこととする。

一方、学校法人青山学院では実習科目のためのフロアを想定した街中メディア拠点としての新たなビルを、キャンパス至近の学院所有地に建設することとしている。導入が予定されている機能（ラボ・アトリエ実習室、メディア編集室、NHKサテライトスタジオ）の点から、同拠点が完成すればNHKの番組放送等を通じて活動内容を内外に広く伝えることができるため、実習の教育効果や本取組の実施効果を一層高めることが期待できる。

本取組では、以上の教育内容・方法の工夫改善を通して「ラボ・アトリエ実習」の魅力化と定着化を図り、もって総合文化政策学部を新しい時代の「知の創造・発信拠点」とし、わが国の大学教育において際立った特色と個性を発揮できるようにすることを目指す。